TEC-FORCEアドバイザーによる現地診断（大分県大分市）

国土交通省
大分河川国道事務所

・国道10号の法面についてTEC-FORCEアドバイザーに現地診断して頂き、今後の対応について意見を伺った。

参加者：大分大学　鶴成（つるなり）教授、日本文理大学　池見（いけみ）教授、
大分河川国道事務所、日田国道維持出張所、大分維持出張所

●TEC-FORCEアドバイザーによる現地診断（令和7年12月8日）

机上説明

現地診断

現地診断

【TEC-FORCEアドバイザーの見解】
・当該箇所の地質は、今市火砕流堆積物を主体としているものと考えられる。
・アーチ式の落石防護柵の支柱が錆びているため、何かしらの対応を検討することが望ましい。
・隣接斜面で災害履歴があり、落石防護柵背面には被災リスクが残存するため、巡回対応に移行せず、カルテ点検を継続すること。

・降雨時には法肩から水が流れ込み、法面へ悪影響を与えている可能性が高いため、排水対策を行うことが望ましい。
・切土法面からの湧水量が少ないため、切り盛り境から湧水しており、表層崩壊に至っているものと考えられる。
・地質構造的に泥質片岩は流れ盤を成すため、将来的に法面崩壊が懸念される。現状では、地山に顕著な変状は認められないが、継続監視すべき箇所ある。
・現状で大規模な変状は確認されないため、新たに防災カルテ点検(カルテ対応)で監視を行い、必要に応じて対策を検討すること。